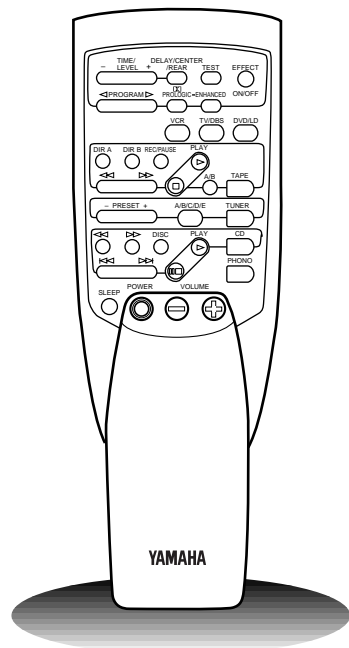
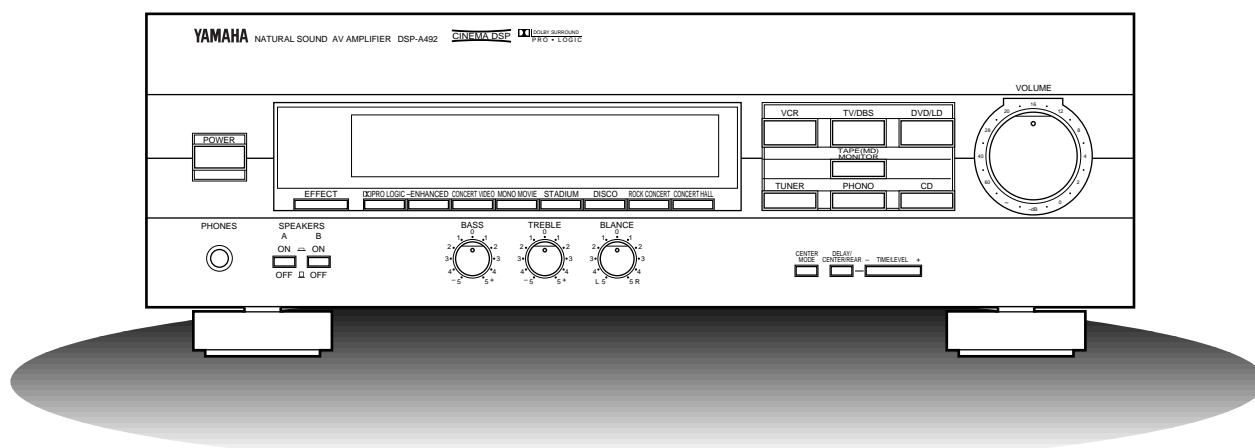


# YAMAHA

## NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

# DSP-A492

### 取扱説明書



このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-A492をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DSP-A492の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

#### 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用前に必ずお読みください

# 安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



## 警告









この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置される時		使用中に異常が発生した時			
	<p>本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。</p> <p>電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>		<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>		
	<p>風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>		<p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>		
ご使用になるとき					
	<p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。</p> <p>本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>				<p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>				<p>絵表示の例</p> <p> 記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。</p> <p> 記号は禁止の行為であることを告げるものです。</p> <p> 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。</p>



# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき	
	<p>湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。</li> <li>・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。</li> </ul>	 <p>接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>	
		 <p>指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>	
		 <p>旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>	
	<b>お手入れについて</b>		
	<p>本機を設置する場合は、間隔をおいてください。放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。</p>	 <p>1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p>	
	<p>移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>	 <p>お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。</p>	

# 特長

CINEMA-DSP YSS-203を搭載、多彩な音場効果が楽しめます。

大規模音場処理のキーデバイスとして、YSS-203を搭載しました。YSS-203はヤマハ独自のCINEMA-DSP処理に必要な機能を内蔵しており、デジタルドルビープロ・ロジックデコーダ及び、高度なDSP音場処理をワンチップで実現しています。最新のドルビーサラウンド映画からモノラルの名画まで、またコンサート、ディスク等の幅広いソフトを多彩な音場効果で楽しめます。

高音質パワーアンプを搭載。

YSS-203の搭載により高度な音場処理を実現しながら実装体積を大幅に縮小できました。DSP-A492の内部は強力な電源部とオーディオ的に熟慮された高音質パワーアンプを中心にレイアウトされています。エフェクトアンプに至るまでオーディオクオリティを重視して設計。

本格的5チャンネルCINEMA-DSPをフルスペックで楽しめます。

# 目次

安全上のご注意 .....	2
特長 .....	4
音場効果をお楽しみいただくために .....	5
スピーカーインピーダンスについて .....	7
接続のしかた .....	8
リモコンの準備 .....	13
各部の名称とはたらき .....	14
再生の前に .....	16
再生する .....	18
音場効果を楽しむ .....	20
録音/録画について .....	22
スリープタイマー .....	22
タイマー再生/録音(録画) .....	23
故障かなと思ったら .....	24
参考仕様 .....	25
ヤマハホットラインサービスネットワーク .....	26



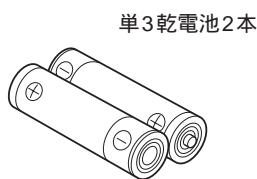
これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。  
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

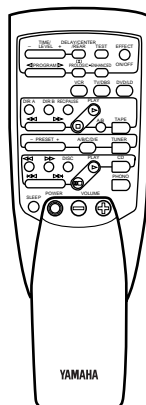
はじめに、次のことをお確かめください。

- 1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか？
- 2 付属品はすべてそろっていますか？

付属品



単3乾電池2本



リモコン

# 音場効果をお楽しみいただくために

本機にはセンタースピーカー、リアスピーカーを設置して楽しむ音場処理機能があります。音場効果を十分にお楽しみいただくため、ご使用前にこの項目をお読みになり、適切なスピーカーシステムを設置してください。

## スピーカーシステムについて

本機の音場効果を楽しむためには、合計5本もしくは4本のスピーカーが必要となります。

再生スピーカーの音色の違いによって、移動する主人公のセリフが不自然に変わることがないように、なるべく音色の揃ったスピーカーをお使いください。

小型のスピーカーをお使いの場合は、十分な重低音や臨場感をお楽しみいただくために、スーパーウーファの追加をお薦めします。（7ページ参照）

### ご注意

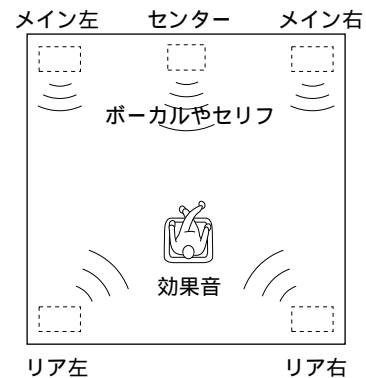
電源を入れるまえに、スピーカーシステムのインピーダンスに応じて背面のIMPEDANCE SELECTORを必ず設定してください（7ページ）。設定を誤るとスピーカーや本機の故障の原因となることがありますのでご注意ください。

## スピーカーシステムを選ぶ

下記を参考にして、5スピーカーシステムまたは4スピーカーシステムのいずれかを選びます。スピーカーシステムに応じてセンターモードが決まります。

### 5スピーカーシステム（センタースピーカーを使用する）

従来の2チャンネルステレオで使用する2本の左右メインスピーカーに加えて、ドルビープロ・ロジックサラウンド効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、およびリスナーの後方に設置する左右リアスピーカーの合計5本のスピーカーを使用します。

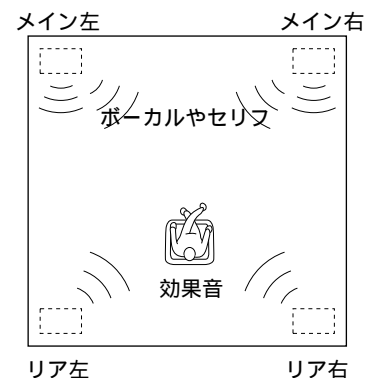


メインスピーカーの間隔が広い場合には、センタースピーカーの使用はセリフの定位などの改善に効果的です。使用するセンタースピーカーに合わせてセンターモードをNORMALまたはWIDEに設定します（16ページ）。

### 4スピーカーシステム（センタースピーカーを使用しない）

左右のメインスピーカー2本と、左右のリアスピーカー2本合計4本のスピーカーを使用するシステムです。

ドルビープロ・ロジック再生時のセンターチャンネル信号は、左右のメインスピーカーが再生します。

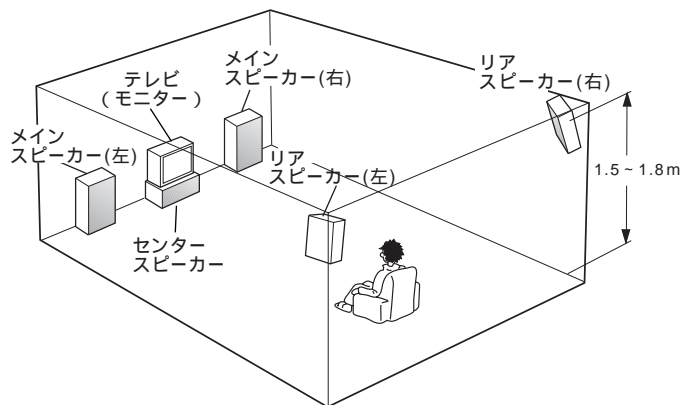


TVの両側にメインスピーカーを設置するような、スピーカーの間隔が比較的狭い場合は、センタースピーカーを使用しなくても十分な効果が得られます。センターモードはPHANTOMに設定します（16ページ）。

# 音場効果をお楽しみいただくために

## スピーカーの配置

### 5スピーカーシステムの配置例



スピーカーは上図のような位置関係が理想ですが、厳密に揃わなくても十分な効果が得られます。

#### メインスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビをはさんで設置する場合は、左右のスピーカーとテレビの距離を同じにします。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

#### センタースピーカー

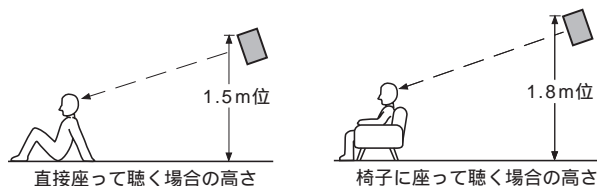
テレビを設置している場合は、テレビ画面とスピーカーの前縁を揃え、テレビの下または上など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

デュアルセンタースピーカー（センタースピーカー2本使用）  
テレビの両脇にセンタースピーカーを2本設置することもできます。

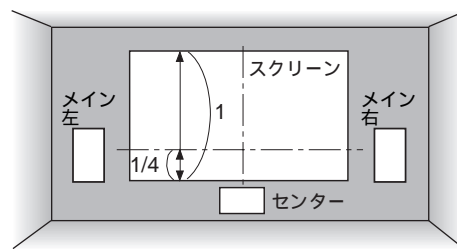
#### リアスピーカー

上図の配置例のようにメインスピーカーより左右の間隔を開けた後方斜めに配置し、スピーカーをリスニングポイントに向けてください。

スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



### スクリーン使用時の設置例



メイン左、右は、スクリーン下辺から1/4の高さが適当です。  
センタースピーカーは、スクリーンのすぐ下中央に設置します。1本使いが定位の点で効果が得られます。

#### ご注意

スピーカーによっては、テレビ（モニター）の画面が乱れることがあります。画面近くに設置するセンタースピーカーやスーパーウーファには、防磁型スピーカーの使用をお勧めします。（テレビの画面が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離してください）

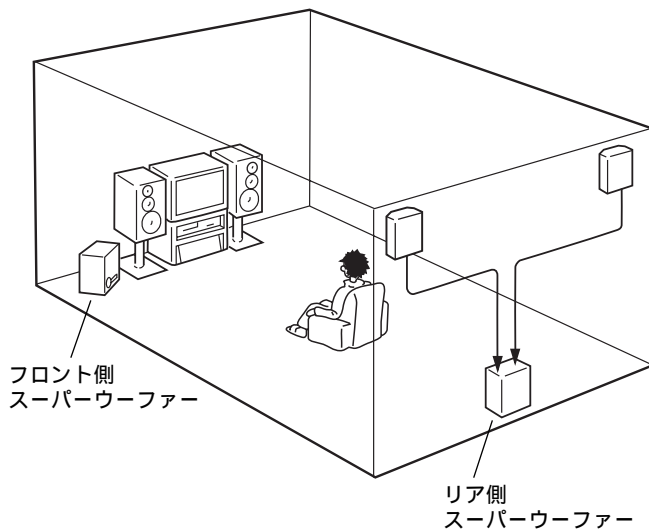


## スーパーウーファーについて

スピーカーシステムにスーパーウーファーを加えると、映画再生時の迫力や臨場感を大きく改善することができます。メインスピーカーに比較的大型のスピーカーを使用する場合でも、良質のスーパーウーファーを追加することで大きな効果が得られます。1台目はフロント側に、2台目をリア側に設置することをお薦めします。

フロント側スーパーウーファーは、メイン左右とセンターチャンネルの200Hz以下の信号をミックスして出力します。

映画ではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。メイン側の低音とリア側の低音が再現されると迫力だけでなく、特にCINEMA-DSP音場プログラムのリアリティが大きく改善されます。



### フロント側スーパーウーファー

#### 配置

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聞こえ方は、スピーカーを置く位置と聞く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

#### 接続

本機背面のスーパーウーファー用のSUB WOOFER 出力端子に接続します(11ページ)。

### リア側スーパーウーファー

#### 配置

視聴位置より後方に設置します。左右の位置は関係しません。

#### 接続

リア専用のスーパーウーファーは、リアスピーカーのL、R端子からスピーカーコードで接続します。詳しくは、スーパーウーファーの取扱説明書をご覧ください。

どのようなスピーカーシステムにするかを決めたら、接続に入りますが、その前に、お使いになるスピーカーシステムのインピーダンスインピーダンスに応じて背面のIMPEDANCE SELECTORセレクターを切り換えます。

### ご注意

インピーダンスセレクターを切り換えるときは、必ず電源を切った状態で切り換えてください。電源が入った状態で切り換えると故障の原因になります。正しく設定しないと本機やスピーカーの故障の原因となる場合があります。

使用するスピーカーのインピーダンス( )

上側にセットする場合	
リア	6 以上/1本
センター	1本使用: 6 以上 2本使用: 3 以上/1本
メイン	AまたはB: 4 以上/1本 A+B: 8 以上/1本

**IMPEDANCE SELECTOR**

REAR	6Ω MIN. /SPEAKER
CENTER SINGLE	6Ω MIN. /SPEAKER
DUAL	3Ω MIN. /SPEAKER
MAIN A OR B	4Ω MIN. /SPEAKER
A+B	8Ω MIN. /SPEAKER

REAR	8Ω MIN. /SPEAKER
CENTER SINGLE	8Ω MIN. /SPEAKER
DUAL	4Ω MIN. /SPEAKER
MAIN A OR B	8Ω MIN. /SPEAKER
A+B	16Ω MIN. /SPEAKER

下側にセットする場合	
リア	8 以上/1本
センター	1本使用: 8 以上 2本使用: 4 以上/1本
メイン	AまたはB: 8 以上/1本 A+B: 16 以上/1本

### 切り換えの基準

使用するスピーカーのインピーダンス( )と同じか、それよりも低い表示側にセットする。

インピーダンス表示より低いスピーカーは使用しない。

例: スピーカーシステムがメイン4、センター6、リア4の場合、IMPEDANCE SELECTORを上側に切り換えても4のリアスピーカーは使えません。6以上のインピーダンスを持つリアスピーカーを使用してください。

# 接続のしかた

## 正しい接続のために

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

ヤマハCDプレーヤー、チューナー、テープデッキなどシステム接続する場合は、各機器と本機と同じ番号（①、②など）のついた端子どうしを接続してください。

接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。ピンジャックの入/出力端子は、信号別に色分けされています。

- ・音声信号の左(L)チャンネル白色
- ・音声信号の右(R)チャンネル赤色
- ・モノラル信号黒色
- ・映像信号（コンポジット）黄色

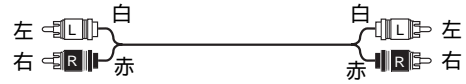
入/出力端子の接続には、市販のピンプラグコードをご用意ください。

本機が他の機器（テレビ、チューナーなど）に影響を与えるような場合は、本機と他の機器の設置場所を離してください。障害をなくするために、チューナーやテレビのアンテナには、屋外アンテナを使用し、同軸ケーブルで接続することをお勧めします。

接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

接続図では、接続コードを次のように示します。

音声信号接続コード

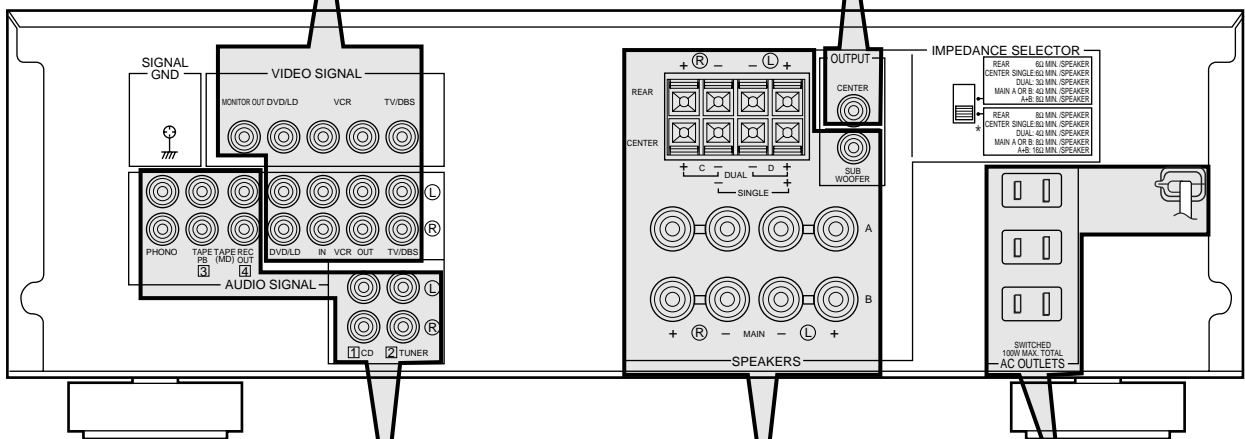


映像信号接続コード（コンポジット）



ビデオ機器の接続  
10ページ参照

他のアンプとの接続  
12ページ参照



オーディオ機器の接続  
9ページ参照

スピーカーの接続  
11ページ参照

電源プラグ、電源供給コンセントの接続  
すべての接続が終わってから接続します。  
12ページ参照



## オーディオ機器の接続

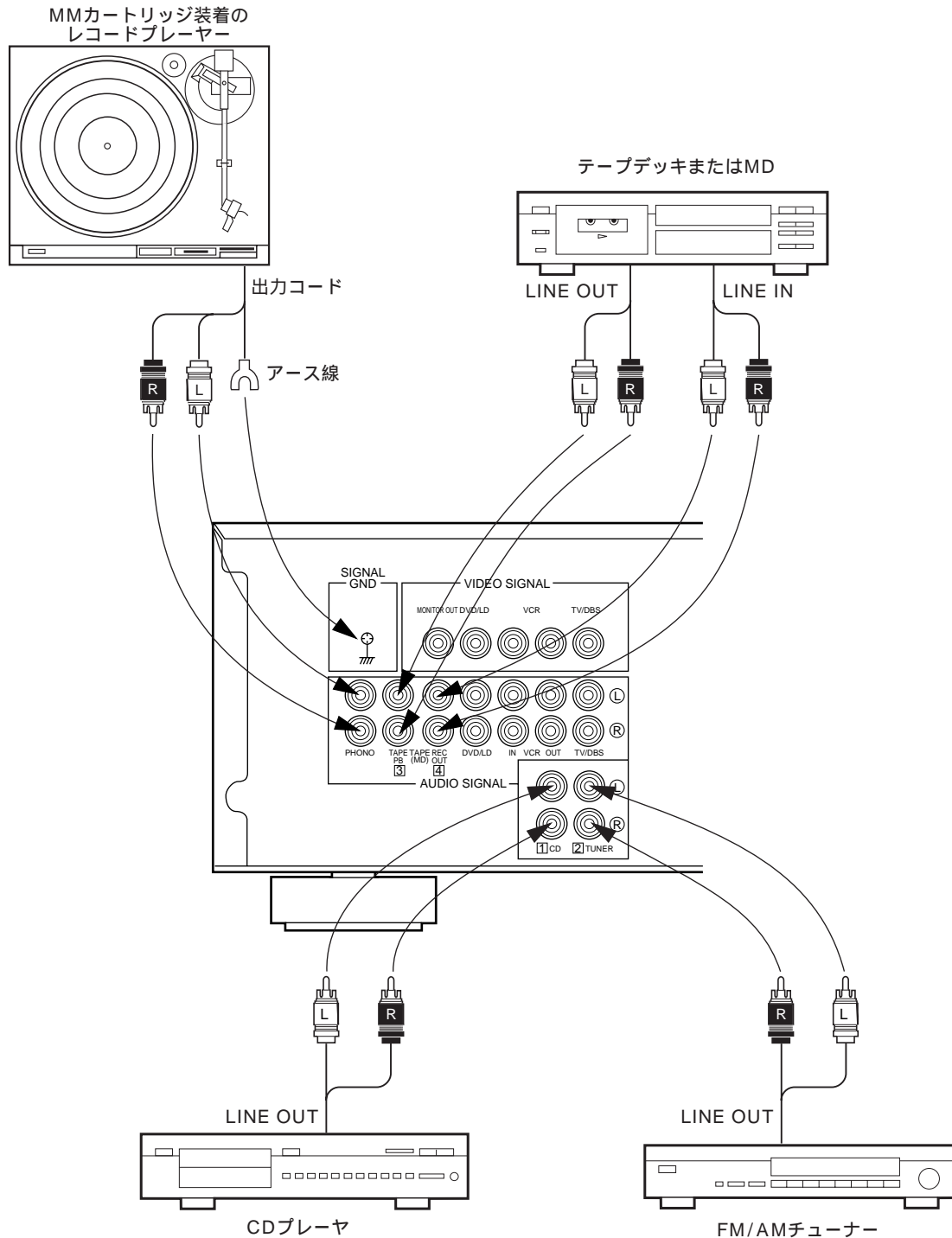
右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

### フォノ PHONO端子について

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。

低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいは、MCヘッドアンプが別途必要になります。

レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。



# 接続のしかた

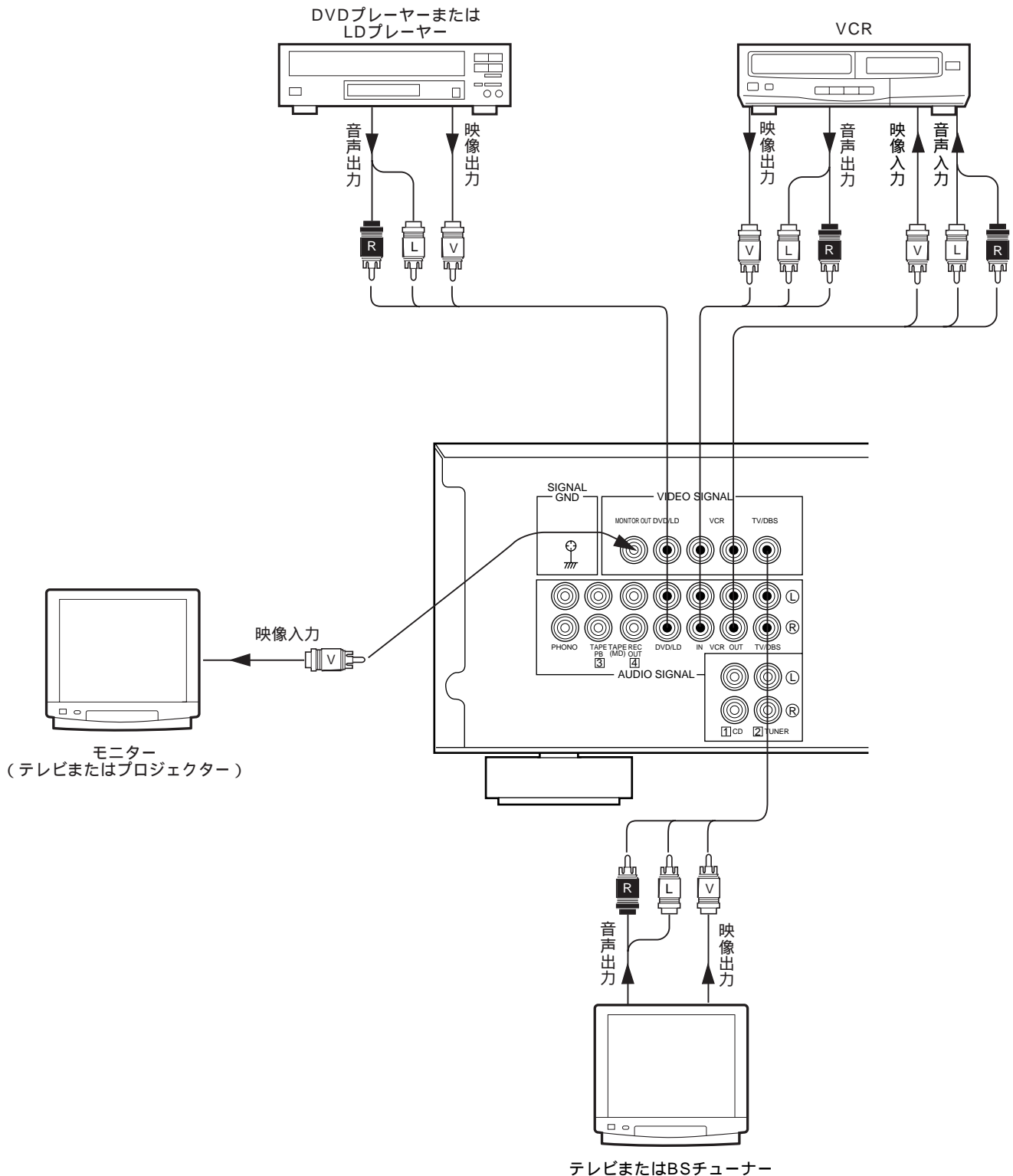
## ビデオ機器の接続

### オーディオ シグナル AUDIO SIGNAL端子の接続

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

### ビデオ シグナル VIDEO SIGNAL端子の接続

入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。



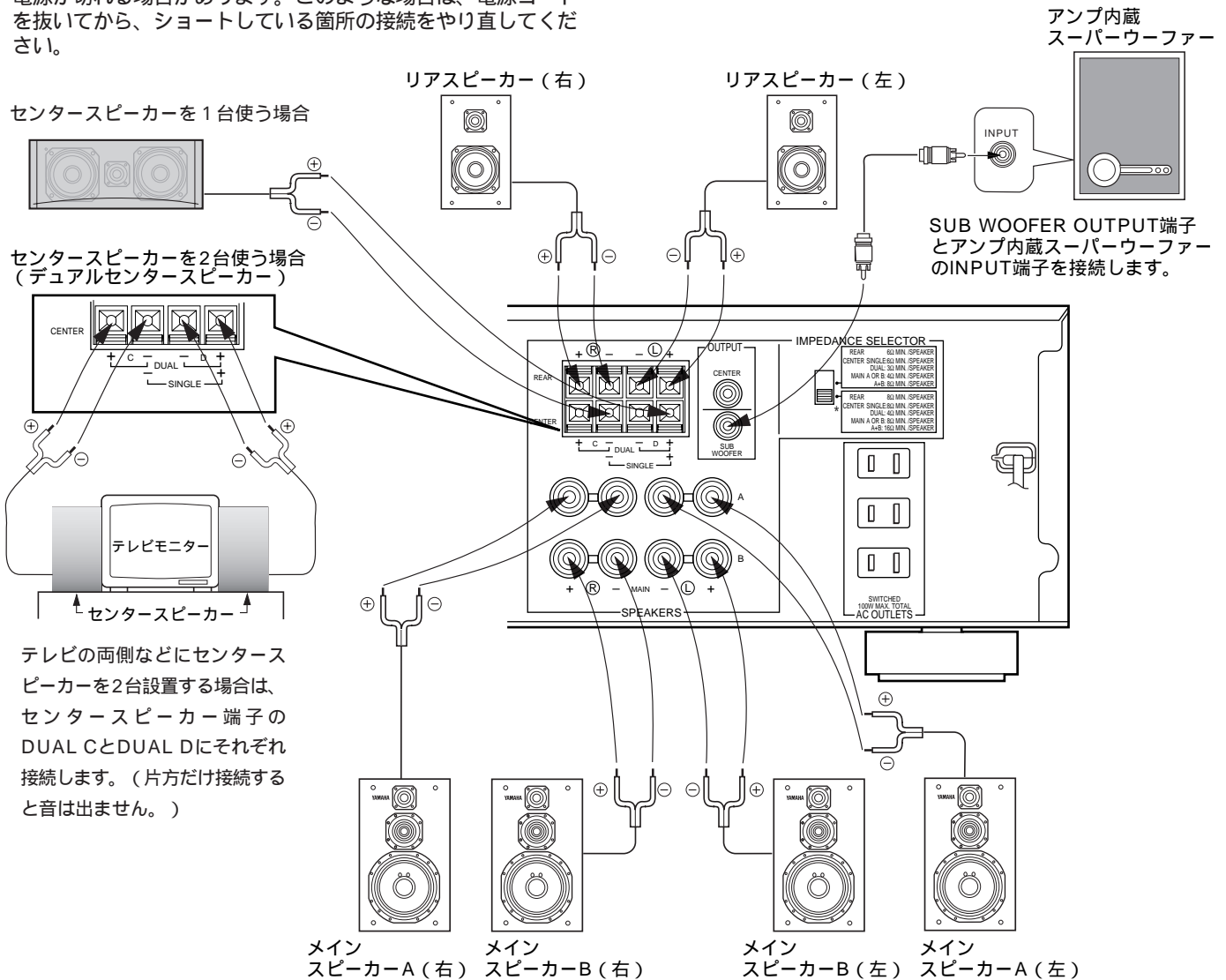
## スピーカーの接続

接続する際、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、“+”(赤)、“-”(黒)を確認して正しく接続してください。極性(+、-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音となることがあります。

スピーカーコードの接続は、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働き電源が切れる場合があります。このような場合は、電源コードを抜いてから、ショートしている箇所の接続をやり直してください。

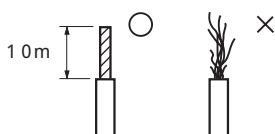
## ご注意

スピーカーの接続をする前に、背面のIMPEDANCE SELECTORを、使用するスピーカーシステムのインピーダンスに応じて必ず切り換えてください。7ページの「スピーカーインピーダンスについて」をご覧ください。



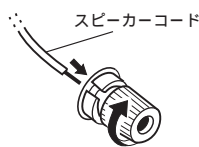
### スピーカーコードの接続

スピーカーコードの先端の絶縁部を10mm位はがし、しっかりとねじります。芯線がバラけているとショートしやすいのでご注意ください。

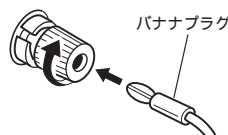


### メイン側スピーカー端子

スピーカー端子の穴に差し込み、右回りにしっかりと締めます。

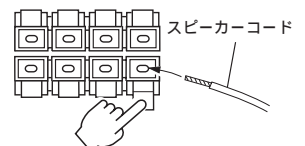


市販のパナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



### センター/リア側スピーカー端子

レバーを押してスピーカー端子の穴に差し込み、レバーを離します。コードがロックします。確実にスピーカーコードがロックされたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。



## 他のアンプとの接続

### センター アウトプット CENTER OUTPUT 端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ（プリメインアンプ）と接続して、センタースピーカーを駆動したい場合に使用します。

## 電源プラグ、電源供給コンセントの接続

### 電源プラグ

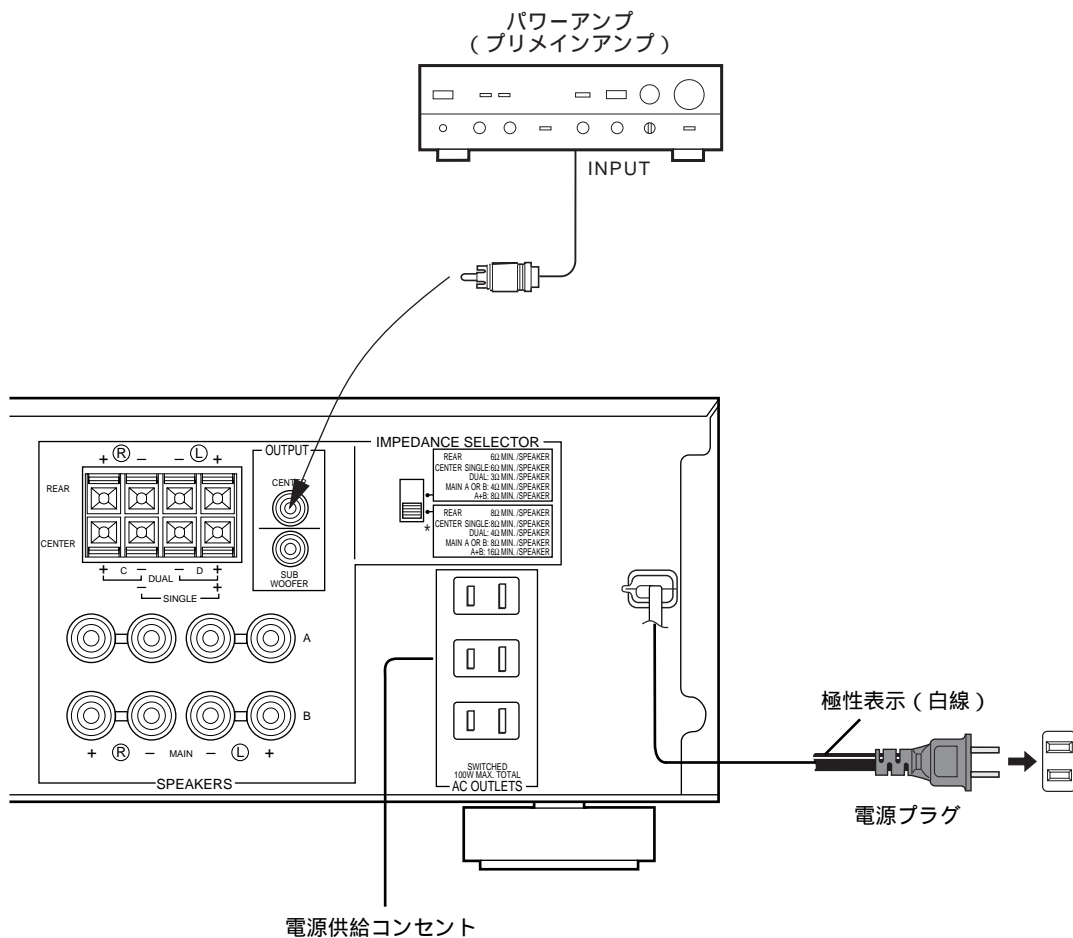
電源プラグは、すべての機器の接続が完了するまで、コンセントに差し込まないでください。

家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにプラグを差し込みます。本機の消費電力は、IMPEDANCE SELECTORを上側に設定した場合は230W、下側に設定した場合は210Wです。本機の電源コードには電源トランスの巻始めが極性表示（白線）されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

### スイッチド エーシー アウトレット SWITCHED AC OUTLETS（電源供給連動コンセント）

本機のPOWERスイッチと連動しており、3つのコンセントに合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

また本機コンセントの長い方の穴が電源トランスの巻始め側になっています。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。

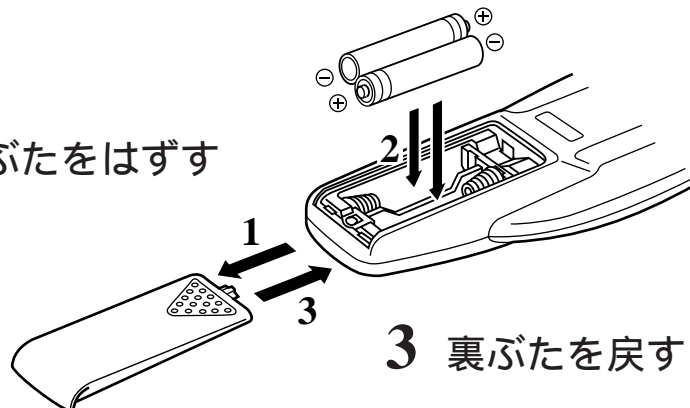


# リモコンの準備

## 乾電池の入れかた

### 2 単3乾電池（2個）を入れる

#### 1 裏ぶたをはずす



#### 3 裏ぶたを戻す

## 乾電池のご注意

乾電池は誤った使い方をすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

乾電池のプラス $\oplus$ とマイナス $\ominus$ の向きを表示どおりに正しく入れてください。

新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。

種類のちがう乾電池を混ぜて使用しないでください。

同じ形状でも電圧の異なるものがあります。

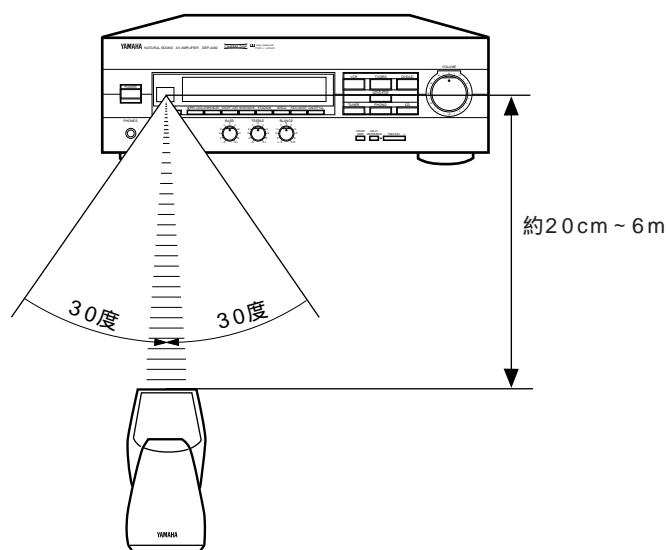
乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。

乾電池には充電式と充電式でないものがあります。

乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。

液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

## リモコンの使用範囲



### リモコン用乾電池の交換時期

リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約1年間です。

リモコン受信部に近寄らないと動作をしない場合は、乾電池を交換してください。

### リモコン取扱上のご注意

受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。

リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、温度の高い所には置かないでください。

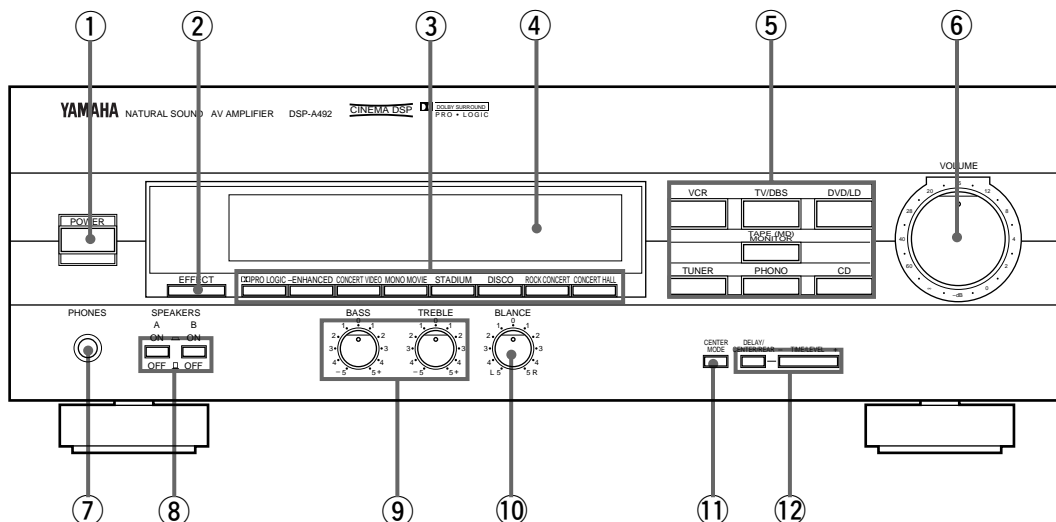
受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが働きにくくなります。

照明または製品本体の向きを変えてください。

他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作をしないことがあります。

# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル



### ① パワー POWERスイッチ

本機の電源を入/切します。

電源を入れるときは、ボリュームを絞ってください。

電源が入っても、数秒間は本機のミュート機能の働きにより音は出ません。

### ② エフェクト EFFECTキー

音場プログラムの効果をON/OFFします。OFFにすると、通常のステレオ再生になります。(センタースピーカーとリアスピーカーからの音は出ません。)

### ③ 音場プログラムキー

8種類の音場プログラムを選択します。(20ページ参照)

### ④ ディスプレイ

入力ソース名や設定状態を表示します。

### ⑤ インプットセレクター

再生したいソースを選択します。(18ページ参照)

### ⑥ ボリューム VOLUMEツマミ

全体の音量を調節します。右に回すほど音量が大きくなります。

### ⑦ ホーンズ PHONES端子

ヘッドホンを接続します。メインチャンネルの音が出力されます。ヘッドホンだけでお聞きになる場合、SPEAKERSスイッチ(A・B)をOFFにし、EFFECT OFFにしてください。

### ⑧ スピーカーズ SPEAKERSスイッチ

本機に接続されたメインスピーカーA・Bを選択します。A・B両方のスイッチをONすると、A・B両方のメインスピーカーから音が出ます。

SPEAKERSスイッチをON/OFFするときは、VOLUMEを絞ってください。

### ⑨ トーンコントロール

メイン左右チャンネルの低音(BASS)・高音(TREBLE)を調節します。

トーンコントロール(BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

### ⑩ バランス BALANCEツマミ

メイン左右チャンネルの音量バランスを調節します。L側に回すほど、R側の音が小さくなり、R側に回すほど、L側の音が小さくなります。通常は0位置にセットしておきます。

### ⑪ センター モード CENTER MODEキー

センタースピーカーに合わせて、センターモードを設定します。(16ページ参照)

### ⑫ ディレイ センター リア DELAY/CENTER/REARキー

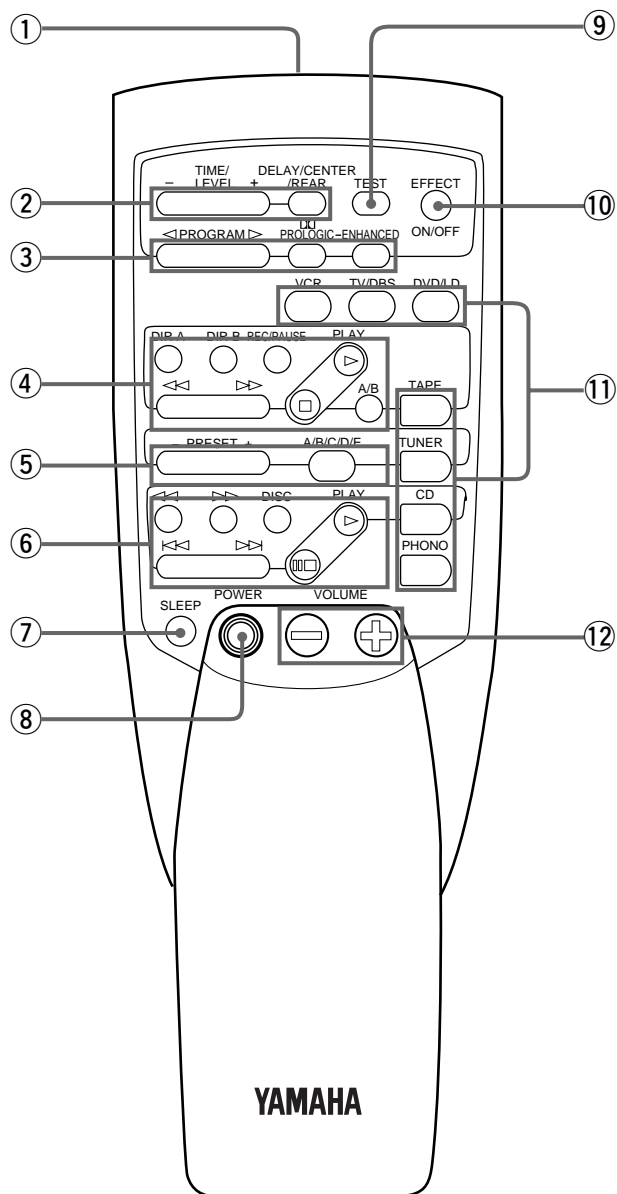
ディレイタイム、センターチャンネル、リアチャンネルの各調節モードを切り換えます。

タイム レベル TIME/LEVELキー

DELAY/CENTER/REARキーで選んだモードのレベルを調節します。キーの+側を押すと値が増え、-側を押すと値が減ります。



## リモコン



### ①送信窓

リモコンのコントロール信号を送信します。

### ②ディレイ センター リア DELAY/CENTER/REARキー

ディレイタイム、センターチャンネル、リアチャンネルの各調節モードを切り換えます。

### タイム レベル TIME/LEVELキー

DELAY/CENTER/REARキーで選んだモードのレベルを調節します。キーの+側を押すと値が増え、-側を押すと値が減ります。

### ③音場プログラムキー

8種類の音場プログラムを選択します。(20ページ参照)

### ④テープデッキ操作キー

ヤマハのリモートコントロール対応のテープデッキを操作するキーです。テープデッキのリモコンに表示されているキー名称と同じ働きをします。

REC/PAUSE：録音待機状態になります。

DIR A：デッキAのテープ走行方向を選択します。  
(または、オートリバーステープデッキのテープ走行方向を選択します)

DIR B：デッキBのテープ走行方向を選択します。

PLAY▷：再生を始めます。

□：再生または録音の停止をします。

◀◀：◀◀方向の早送りをします。

▶▶：▶▶方向の早送りをします。

A/B：ダブルデッキのデッキAとデッキBを切り換えます。

### ⑤チューナー操作キー

ヤマハのリモートコントロール対応のチューナーを操作するキーです。

PRESET：プリセットされた放送局を選局します。

A/B/C/D/E：プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。

### ⑥オーディオ CDプレーヤー操作キー

ヤマハのリモートコントロール対応のCDプレーヤーを操作するキーです。CDプレーヤーのリモコンに表示されているキー名称と同じ働きをします。

◀◀：前方向にスピードサーチします。

▶▶：後方向にスピードサーチします。

DISC：ディスク番号を選びます。

◀◀：曲の頭に戻ります。

▶▶：次の曲の頭に進みます。

PLAY▷：演奏を始めます。

◻/◻：一度押すと一時停止、もう一度押すと停止します。

### ⑦スリープ SLEEPキー

スリープタイマーを設定します。(22ページ参照)

### ⑧パワー POWERキー

本機の電源を入/切します。

### ⑨テスト TESTキー

テストトーンを入/切します。(17ページ参照)

### ⑩エフェクト EFFECTキー

音場プログラムの効果を入/切します。

### ⑪インプットセレクター

再生したいソースを選択します。(18ページ参照)

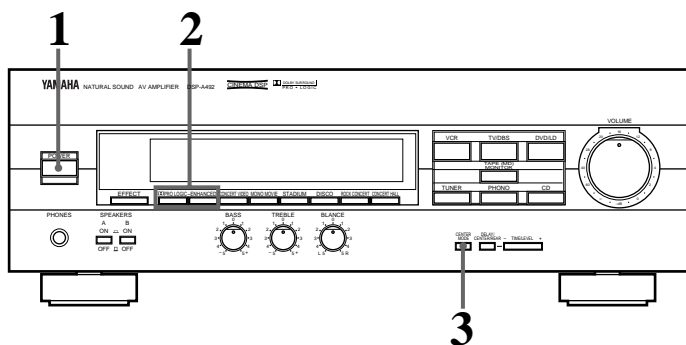
### ⑫ボリューム VOLUMEキー

全体の音量を調節します。

# 再生の前に

本機の音場処理機能の効果を十分に発揮させるため、ソースを再生する前にスピーカーシステムに合わせて **センターモードの設定** **スピーカーレベルの調節**を行います。

## センターモードの設定



## センターモードについて

ドルビープロロジックやドルビープロロジックエンハンスドの効果を十分に発揮させるため、スピーカーシステムに合わせてセンターモードを選びます。

### NORMAL (ノーマル)

センタースピーカーに比較的小型のスピーカーを使用したときのモードです。センターチャンネルに出力される音のうち100Hz以下の低音は左右のメインスピーカーが再生します。

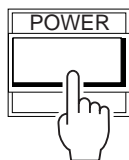
### WIDE (ワイド)

センタースピーカーにメインスピーカーと同等のスピーカーを使用したときのモードです。センターチャンネルに出力される全帯域の信号をセンタースピーカーが再生します。

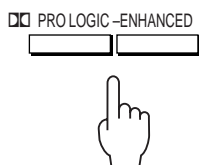
### PHANTOM (ファントム)

センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネルに出力される信号は、左右のメインチャンネルに同じレベルで振り分けられ、左右のメインスピーカーが再生します。

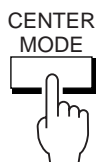
### 1 電源を入れる



### 2 PRO LOGICキーまたはPRO LOGIC ENHANCEDキーを押す



### 3 CENTER MODEキーでセンターモードを選ぶ



キーを押すごとに、次のように切り換わります。

NORMAL → WIDE → PHANTOM

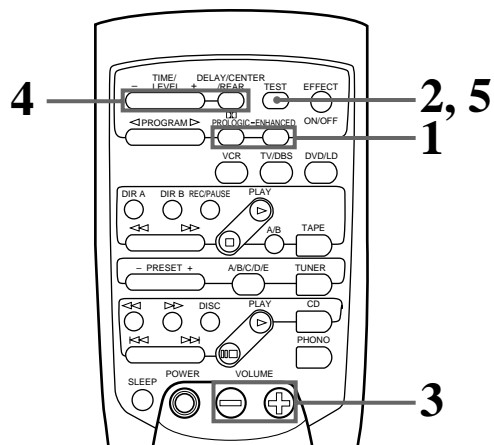
## スピーカーレベルの調節

テストトーンを聞きながら、設置した各スピーカーの音量レベルが同じになるように調節します。一度調節すれば、スピーカーや部屋を変えたりしない限り、再度調節する必要はありません。

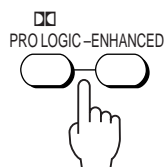
リモコンで操作します。

実際の視聴位置で調節してください。

左右のメインスピーカーの音量バランスは、あらかじめ本体のBALANCEツマミで調節しておきます。



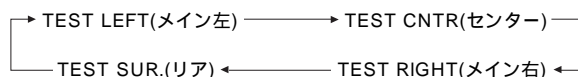
- 1**  PRO LOGICキーまたは PRO LOGIC ENHANCEDキーを押す



- 2** TESTキーを押す



各スピーカーからテストトーンが約2秒づつ聞こえ、次のように表示されます。



センターモードのPHANTOMを選んでいるときは、センタースピーカーからテストトーンは出ません。

- 3** テストトーンの音量をVOLUMEで調節する



テストトーンが聞こえない場合や、スピーカーの表示と聞こえる位置が違うときは、一度VOLUMEを絞って電源を切ってから、スピーカーの接続を確認してください。

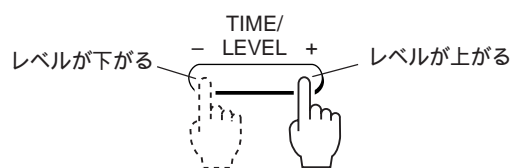
- 4** センタースピーカーとリアスピーカーの音量を調節する

センタースピーカーの音量調節：

DELAY/CENTER/REARキーを押してTEST CNTR表示にする



センタースピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるようにTIME/LEVELキーで調節する



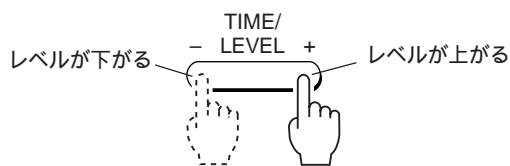
センターモードがPHANTOMのときはセンターレベルの調節はできません。また、メインスピーカーに振り分けられたセンターチャンネルの音量も調節できません。

リアスピーカーの音量調節：

DELAY/CENTER/REARキーを押してTEST SUR表示にする



リアスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるようにTIME/LEVELキーで調節する



- 5** 調節が終わったら、TESTキーを押す



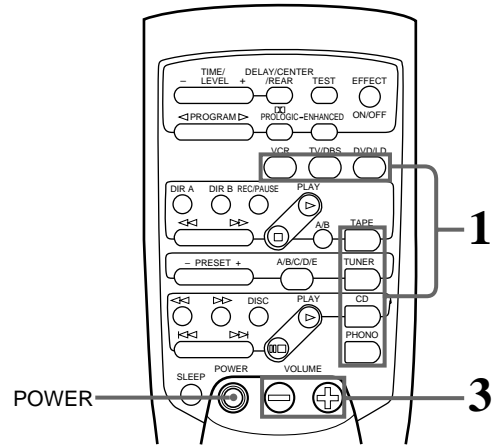
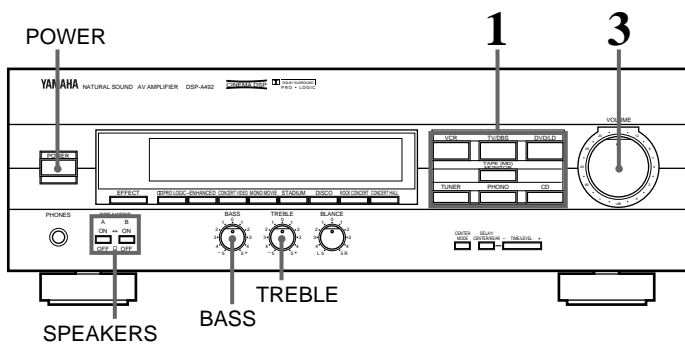
テストトーンが消えます。

### 調節できるレベルの範囲

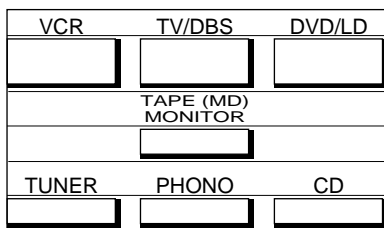
MINと - 20dBから + 10dBです。調節したレベルが約1秒表示されます。MINのときは音量が最小になります。

# 再生する

VOLUMEを絞ってからPOWERスイッチを押して電源を入れます。メインスピーカーを2組接続している場合は、SPEAKERSスイッチで使用するスピーカーを設定します。



## 1 インットセクターで再生するソースを選ぶ



### オーディオ系

TAPE (MD) MONITOR : テープデッキまたはMD  
 TUNER : AM/FMチューナ  
 PHONO : レコード  
 CD : CD

### ビデオ系

VCR : ビデオデッキ  
 TV/DBS : テレビまたはBSチューナー  
 DVD/LD : DVDまたはLD

## BGV機能

ビデオ系ソースを選択した後、オーディオ系ソースを選択すると、映像はそのまま残り、BGV（バックグラウンドビデオ）として楽しむことができます。

## 音場プログラムを選ぶには

音場プログラムキーを押します。詳しくは20ページをご覧ください。

### 通常のステレオ再生

EFFECTキーを押してEFFECT OFF表示にします。リア、センタースピーカーからの音は出ません。

## ご注意

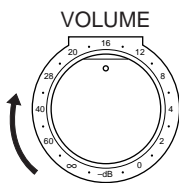
TAPE MONが表示されていると、インットセクターで他のソースを選んでも音は聞こえません。テープデッキを再生しないときは、TAPE (MD) MONITORを押してTAPE MON表示を消してください。

REC OUT端子に接続されている機器の電源が切られている場合、聴いているソースの音量が下がったり、歪んだりすることがあります。そのようなときは、接続機器の電源を入れてお使いください。

## 2 ソースの再生を始める

それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

## 3 VOLUMEで音量を調節する



必要ならば、音質をトーンコントロール（BASS、TREBLE）で調節します。次頁をご覧ください。

## 音質調節

### BASS

低音域を調節するつまみで、右 (+) に回すほど低音域が強調され、左 (-) に回すほど弱まります。

0の位置でフラットな特性になります。

### TREBLE

高音域を調節するつまみで、右 (+) に回すほど高音域が強調され、左 (-) に回すほど弱まります。

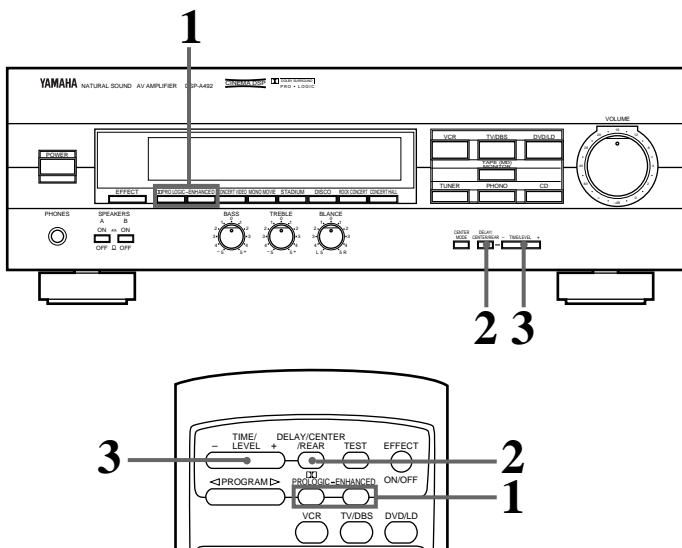
0の位置でフラットな特性になります。

トーンコントロール (BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

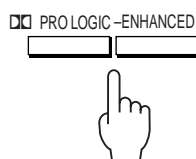
トーンコントロール (BASS・TREBLE)でメインを極端に強調したり弱めた場合、センターおよびリアとの音のつながりが悪くなりますので注意してください。

## センター/リアスピーカーのレベル調節

再生音を聞いてセンター/リアスピーカーのレベルをさらに調節したい場合は、テストトーンでのレベル調節をしたあとでも調節できます。



- 1 センターレベルを調節するときは、 PRO LOGICキーまたは PRO LOGIC ENHANCEDキーを押す

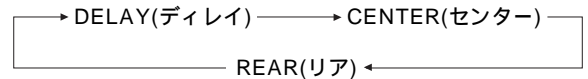


リアレベルは他の音場プログラムでも調節できます。

- 2 DELAY/CENTER/REARキーを押して調節するモードを選ぶ

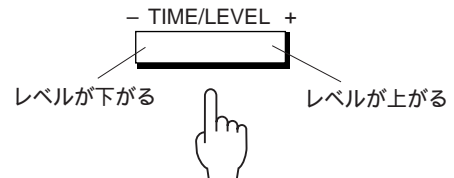


押すごとに次のように切り換わります。



音場プログラムが PRO LOGICまたは PRO LOGIC ENHANCED以外のときは、CENTERは表示されません。

- 3 TIME/LEVELキーでレベルを調節する



選んだレベルは、すべての音場プログラムに共通して設定されます。

# 音場効果を楽しむ

本機は、コンサートホールや映画館で体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサを搭載しています。8種類の音場プログラムの中から再生するソースに合ったプログラムを選んでお楽しみください。

## 各音場プログラムの特長

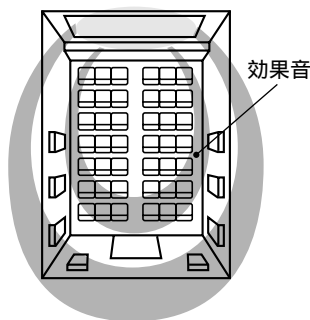
No.	音場プログラム	特長および最適ソース	ディレイタイム
1	ドルビー プロ ロジック PRO LOGIC*	ドルビーサラウンドでエンコードされたソースの再生用、セパレーションに優れ安定したデコードが得られます。	15～30ms 初期値20ms
2	ドルビー プロ ロジック PRO LOGIC ENHANCED	ドルビー プロ・ロジックのサラウンド信号を周囲に拡げ、35mm映画館のマルチサラウンドシステムをシミュレーション。	15～30ms 初期値20ms
3	コンサート ビデオ CONCERT VIDEO	ロック/ジャズ等のライブコンサートの雰囲気再現します。	1～100ms 初期値28ms
4	モノ ムービー MONO MOVIE	古典的な映画館の音場を再現します。程よい響きと広がりがあり、懐かしい名画の再生に適しています。	1～100ms 初期値20ms
5	スタジアム STADIUM	野外スタジアムの音場を再現します。	1～50ms 初期値45ms
6	ディスコ DISCO	ホットなディスコの雰囲気再現します。拡がり感よりも、集中したエネルギー感に特長があります。	1～100ms 初期値14ms
7	ロック コンサート ROCK CONCERT	ロサンゼルスなどのホットなロックライブハウスの音場効果が得られます。	1～100ms 初期値17ms
8	コンサート ホール CONCERT HALL	響きの豊かな中規模円型ホールの音場効果が得られます。	1～100ms 初期値30ms

実測音場データを採用している為、プログラムによっては効果音の左右バランスが異なるものもあります。  
プログラムNo.1および2は方向性強調回路を使用するので、ソースがモノラルの場合、リアスピーカーから音は出ません。  
プログラムNo.3～8はセンタースピーカーから音は出ません。

\* ドルビー サラウンド プロ・ロジックは、ドルビーラボラトリーズ・ライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、PRO LOGIC及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズ・ライセンシングコーポレーションの商標です。

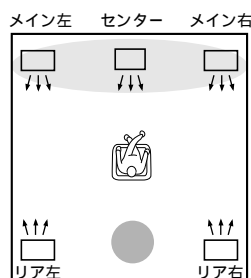
## 映画館の音場とCINEMA DSPの音場について

映画館の音場再生



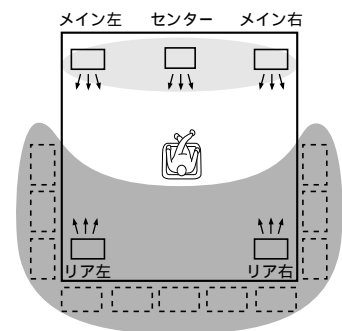
映画の音響再生方式ドルビーステレオは、映画館の広い空間と多数のサラウンドスピーカーが周囲に配された環境で再生することを前提としています。

ドルビープロロジックによる家庭でのサラウンド再生



しかし、映画館と再生環境の異なる家庭で、映画のサウンドデザイナーの意図までも再生するには、ドルビープロロジックだけでは十分ではありません。

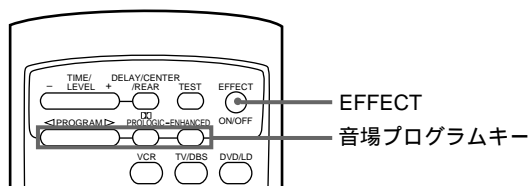
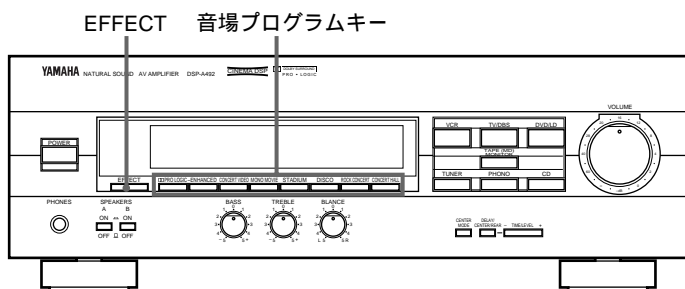
CINEMA DSPによる音場再生



そこで、ドルビープロロジックとヤマハ独自のDSP技術を融合させた「CINEMA DSP」が非常に効果的です。ご家庭でも映画館のような雄大な音場感や臨場感と迫力あふれるシアターサウンドを再生します。



## 音場プログラムの選びかた



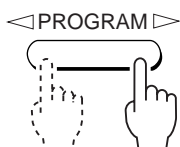
### 本体で操作するとき

PRO LOGIC-ENHANCED
  CONCERT VIDEO
  MONO MOVIE
  STADIUM
  DISCO
  ROCK CONCERT
  CONCERT HALL



選びたい音場プログラムキーを押します。

### リモコンで操作するとき



PROGRAMキーの◀または▶を押して希望の音場プログラムを表示します。

PRO LOGICキーまたはENHANCEDキーはそれぞれのプログラムをダイレクトに選びます。

### 音場プログラムの入/切

EFFECTキーを押すたびに音場プログラムの入/切ができます。音場プログラムをオフにするとEFFECT OFFが表示されます。

### 音場プログラムのメモリー

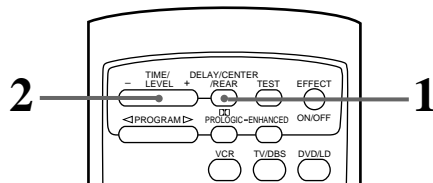
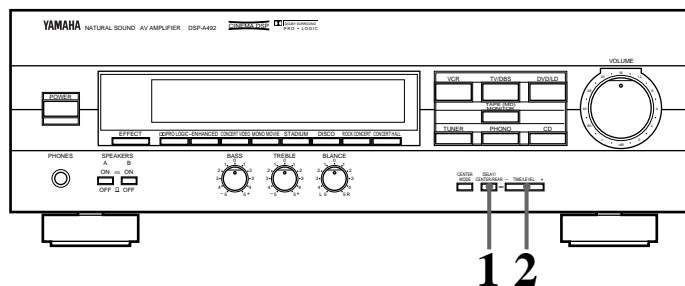
音場プログラムを設定すると、そのとき選んでいるインプットセレクターにメモリーされます。音場プログラムを変えない限り、インプットセレクターで入力を選ぶと、設定したプログラムになります。

## ディレイタイムについて

ディレイタイムは各プログラムごとに最適値がそれぞれプリセットされていますので、通常は初期値のままで十分お楽しみいただけます。しかし、必要があれば、再生するソースやリスニングルームの状況に応じて調整することができます。ディレイタイムを長めに設定しますと、大きめの音場空間が、短めに設定しますと、小さめの音場空間が創造されます。

工場出荷時の初期値およびディレイタイムの調節範囲はプログラムごとに異なります。前ページの表をご覧ください。

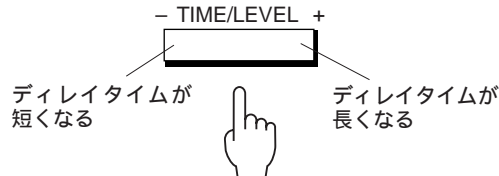
## ディレイタイムを調節する



- 1 音場プログラムを選び、DELAY/CENTER/REARキーを押してDELAY表示にする



- 2 TIME/LEVELキーでディレイタイムを調節する



設定したディレイタイムは各プログラムごとに記憶され、次に設定を変更するまでは電源を切っても消えません。

### ディレイタイムを初期値に戻すには

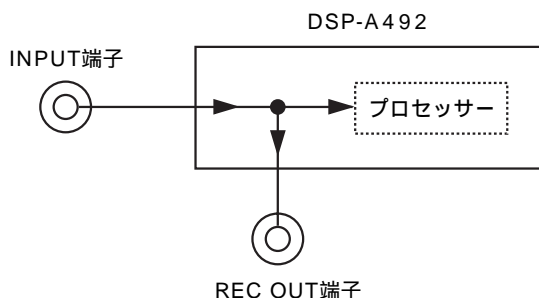
TIME/LEVELキーの“+”または“-”側を押し続けてください。連続して変化するディレイタイムの表示が一旦止まる値が初期値です。

### ご注意

音場プログラムがオフのとき (EFFECT OFF表示) やテストトーンでのレベル調節中はディレイタイムの調節はできません。

# 録音/録画について

本機は、インプットセクターで選んだ入力ソースをそのままREC OUT端子に出力するため、録音するための操作を本機側で行うことはありません。



## 録音レベルの調整

デッキ側で行います。ご使用になるデッキの取扱説明書をご覧ください。

## 録音状態を録音中にチェックするには

3ヘッドのテープデッキで録音する場合、インプットセクターのTAPE (MD) MONITORを押すと録音同時モニターができます。

## 映像と音声を別々のソースから組み合わせて録画したいとき

インプットセクターでビデオ系ソースの映像を選択した後、録音したいオーディオ系ソースを選ぶとBGV（バックグラウンドビデオ）録画をすることができます。

## ご注意

音場効果を加えた音を録音することはできません。  
BASS、TREBLEおよびBALANCEの設定は、録音に影響しません。  
本機の電源を切ると、接続した機器間の録音/録画はできません。  
録音/録画する際、同一ソースの録音/録画はできません。  
(例：VCR IN端子から入った信号は、VCR OUT端子には出力されないため録音/録画することはできません。)

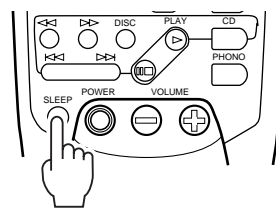
# スリープタイマー

設定した時間が経過すると電源が切れるので、聞きながらおやすみになれます。  
リモコンで操作します。

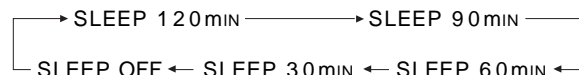
## 1 再生する

本機のSWITCHED AC OUTLETのコンセントに接続した機器（ソース）を選びます。それ以外の機器を選ぶと、本機の電源は切れますが、ソース側の電源は切れません。

## 2 SLEEPキーを押して時間を設定する



押すごとに次のように切り換わります。  
(単位：分)



設定時間を約3秒間表示したあと入力ソース表示に戻ります。

スリープタイマーは、電源を切ると解除されます。

## スリープ動作を途中でやめるには

SLEEPキーを押して、SLEEP OFF表示にします。

# タイマー再生 / 録音 (録画)

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音/録画をすることができます。

ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せてご覧ください。

## 接続

1	本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続する
2	タイマー再生する機器の電源プラグを本機のAC OUTLETSに接続する  接続する機器の合計消費電力がAC OUTLETSの供給電力(100W)を超えないように注意してください。

## 操作

1	すべての機器の電源をONにする
2	インプットセクターでタイマー再生 / 録音するソースを選ぶ  タイマー再生の場合： 再生する機器をタイマー再生ができるように操作します。  タイマー録音 (録画) の場合： 放送局を受信し、デッキなど録音 (録画) する機器をタイマー録音 (録画) ができるように操作します。
3	本機のVOLUMEを調節する  タイマー録音 (録画) で音出しをしない場合は、VOLUMEを絞っておきます。
4	タイマー再生 / 録音 (録画) 開始時刻および終了時刻をオーディオタイマーでセットする  設定した時刻になるとタイマー / 録音 (録画) が開始されます。

## メモリーバックアップについて

本機のPOWERスイッチで電源を切っても、インプットセクター、ディレイタイム、センターモード、レベル(センター、リア)などの内容は消えずに、記憶(メモリー)されています。本機では、メモリー内容を保持するために、特殊なコンデンサーを内蔵してバックアップしています。また、約2週間は電源コードを電源コンセントから抜いても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし、2週間以上電源コードをコンセントから外した場合には、バックアップしているコンデンサーが放電してしまい、メモリー内容が消えることがあります。このような場合には、必要に応じてセンターモード(16ページ)、各スピーカーのレベル調整(17ページ)を行ってください。

電源コードが電源コンセントに接続されていれば、POWERスイッチを切ってもメモリーは常にバックアップされています。メモリー内容が消えることはありません。

# 故障かなと思ったら

本機を使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何らかの異常が認められましたら、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

本機を使用中に強い外来ノイズ（落雷、過大な静電気など）を受けたり、誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、本機の電源を切り電源プラグをコンセントから抜き、約30秒後に再びつないで操作し直してください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください
	スピーカーコードがショートしている	電源コードを抜き、スピーカーの接続をやり直して再度電源コードを差し込みます
電源が切れて、POWERスイッチを押しても入らない 音が出ない	背面のIMPEDANCE SELECTORの位置がずれている	ツマミを上側または下側に、正確にセットしてください
	インプットセレクターが再生したい入力ソースにセットされていない	再生したい入力ソースのインプットセレクターを押してください
	ボリュームが絞られている	本体またはリモコンのVOLUMEで音量を上げてください
片チャンネルの音が出ない	接続が不完全	接続を確認してください
	接続が不完全 BALANCEがどちらか一方に回しきられている	接続を確認してください BALANCEツマミで左右の音量バランスを調整してください
ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込み直してください
メインスピーカーから音が出ない	SPEAKERSスイッチがOFFになっている	SPEAKERSスイッチを押して、ONにしてください
リア、センタースピーカーから音が出ない	EFFECT OFFになっている	EFFECTキーを押して、EFFECT OFF表示を消してください。
センタースピーカーから音が出ない	センターモードがPHANTOMになっている	センターモードを正しくセットしてください
	センターレベルが絞られている	センターレベルを上げてください
	音場プログラムNo.3～8を選択している	音場プログラムNo.3～8では、センターの音は出ません
リアスピーカーから音が出ない	リアレベルが絞られている	リアレベルを上げてください
	音場プログラムNo.1またはNo.2でモノラルソースを再生している	他の音場プログラムを選択してください
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
	リモコンと受光部の間に障害物がある	障害物を移動してください
	リモコンの操作範囲から外れている	本体のリモコン受光部に対して6m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
本機を使用しているとチューナーやテレビから雑音が出る	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯・ストロボライトなど）が当たっている	照明または本体の向きを変えてください
	本機とチューナーやテレビの設置場所が近すぎる	本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器と離して設置してください
本機に接続している機器にヘッドホン接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源が切れている	必ず本機の電源を入れてください
音場効果を加えた音が録音できない	本機のREC OUT端子に接続した録音機器で、音場効果を加えた音を録音することはできません	

# 参考仕様

## オーディオ部

定格出力	
メイン(20Hz~20kHz,0.04%THD,8 )	70W + 70W
センター(1kHz,0.09%THD,8 )	70W
リア(1kHz,0.7%THD,8 )	20W + 20W
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MM	2.5mV/47k
CD他	150mV/47k
最大許容入力(1kHz,0.5%THD)	
PHONO MM	100mV
CD他 (EFFECT OFF)	2.5V
出力電圧/出力インピーダンス(EFFECT OFF)	
REC OUT	150mV/2.5k
SUB WOOFER	3.5V/1k
ヘッドホン出力	
入力1kHz,0.04%THD,8	0.45V
周波数特性(20Hz~20kHz)	
CD他	0 ± 0.5dB
RIAA偏差	
PHONO MM	0 ± 0.5dB
全高調波歪率(EFFECT OFF)	
PHONO MM REC OUT,20Hz~20kHz,1V	0.02%
CD他 SP OUT,20Hz~20kHz,30W/8	0.03%
S/N(EFFECT OFF)	
PHONO MM(5mV入力ショート)	80dB
CD他(入力ショート)	93dB
チャンネルセパレーション(EFFECT OFF, VOL. -30dB)	
PHONO MM(入力0 ショート,1kHz)	60dB
CD他(入力5.1k ショート,1kHz)	60dB
トーンコントロール	
BASS可変幅	± 10dB(50Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE 可変幅	± 10dB(20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz

## ビデオ部

ビデオレベル C	1.0Vp-p/75
最大許容入力	1.5Vp-p/75
S/N	50dB
モニターアウト周波数帯域	5Hz~10MHz,-3dB

## DSP部

DOLBY PRO LOGICデコーダ	YAMAHA YSS203(1個)
RAM	256kbit PS-RAM(1個)
センターモード	ノーマル/ワイド/ファントム
テストトーン	L C R S
プログラム数	
HiFi DSP	6
CINEMA DSP	1
DOLBY PRO LOGIC	1

## 入出力部

入力端子	
音声信号	7
コンポジット映像信号	3 (DVD/LD, TV/DBS, VCR)
出力端子	
REC OUT 音声信号	2 (TAPE (MD),VCR)
コンポジット映像信号	1 (VCR)
OUTPUT 音声信号	2 (センター,サブウーファー)
ビデオモニター	コンポジット: 1
スピーカー出力端子	メインL/R(A/B) センター(デュアル可) リアL/R

## 総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	180W (IMPEDANCE SELECTOR設定: 下側) 220W (IMPEDANCE SELECTOR設定: 上側)
ACアウトレット	SWITCHED × 3 TOTAL 100Wmax
寸法(W×H×D)	435 × 151 × 266.5mm
重量	8.7kg
付属品	リモコン、単3乾電池(2本)

\*仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。



# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## 保証期間

お買上げ日より1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

## 修理料金の仕組み

- 技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

## 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

## 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

## 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口  
AVお客様ご相談センター  
TEL (03) 5488 - 5500

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-0810 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7  
仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184  
TEL (044) 434 - 3100
- 東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)  
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11  
TEL (03) 5488 - 6625
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内  
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内  
TEL (0878) 22 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

## 愛情点検



永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。  
コゲくさい臭いがする。  
電源コードに深いキズか変形がある。  
製品に触れるとビリビリと電気を感じる。  
電源を入れても正常に作動しない。  
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

## ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1  
AV機器事業部  
営業部 TEL (053) 460 - 3451  
品質保証室 TEL (053) 460 - 3405  
住所および電話番号は変更になることがあります。



# メモ

A large rectangular area with rounded corners, containing horizontal dashed lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page, providing a template for notes or a list.

**YAMAHA**